

「あなたのそばで県議会」(大島地域)

開催日時 平成29年7月29日(土)午後1時30分～午後3時30分

開催場所 徳之島町生涯学習センター2階ホール(大島郡徳之島町亀津)

参加者 一般県民130名 県議会31名

内容 ①議会活動の説明

②「あなたの考える大島地域(徳之島)の振興策」について意見交換

・全体会

・分散会 第1班「県民の生活,くらし」

第2班「産業活動の振興」

○意見交換会で出された質疑の内容

(全体会)

県民A

大島本島はトンネル続きで、車は乗用車が多いと思うが、徳之島は大型トラックがサトウキビやジャガイモを積んで走るので、乗用車は怖い思いをしている。

特に伊仙から亀津に向かう道(南原)は狭く、常に危険を感じている。

カーブに橋を架けたり、道路を広くすることはできないか。

トンネルを作るよりそんなに掛からないと思う。

県民B

徳之島には国道がない。

県道はあるが、カーブが多く幅員も狭く、通学路として非常に危険なところも多い。

県道83号線が国道に昇格すれば、国の予算が投入されるので、どうか国道になるように検討してほしい。

団体C

北海道より日本列島を縦断している国道は、奄美大島に止まり南三島を飛び越えて沖縄本島で繋がっている。

今後、徳之島が世界自然遺産に登録されると県道の国道昇格は必要不可欠。

(永井議員)

道路交通網の整備というのはそれぞれの地域のいろいろな課題、地域振興において大切な分野だという認識の中で、県議会においてもそれぞれの地域の課題に取り組んでいるところ。

ご案内のように国道58号線は県本土から種子島、大島本島、そして沖縄本島へと続いている現状がある中で、従前から徳之島地区の皆さんから県道を国道へ昇格して欲しいという声があることは、県議会としても重々承知をしているところ。

国道の見直しや整備については、国の社会資本審議会というところで、見直しの必要性

や基準を満たしているかいろんなことを審議して、そこが答申を出して、国として全国の国道の整備、それから見直しというものを随時図られてきているが、国の現状が一番新しいところで平成5年に社会資本審議会で議論をされ、全国の多くのところの見直しが図られた。

そのときに鹿児島県としても徳之島の県道83号線を国道に昇格して欲しいと強い要望を挙げたところ、国の審議の中でそれが採択されないで、今日に至っている。

その後、国としてはいつどの時期にまた見直しを図るかとか、基準はどうあるべきかという方針は示されていないのが現状。

皆様の気持ちは重々承知をしているので、国の動きも注視して、見直しがあるときに私どもの大切な課題の一つとして、国道昇格ということ为国にしっかり訴えていきたい。

一方で、県道の改良ということは大切なことで、徳之島においても御指摘のところもまだ残っているのも事実。

現在としては犬田布地区や東伊仙地区での道路改良が行われているが、町長もおいでになっているが、それぞれの地域としっかり連携をとって、要求地区の中でも課題のある地区もあるが、今後も大切な分野と位置づけてしっかり取り組んで参りたい。

団体C

鹿児島県離島航空割引を来島者全てに拡大できないか。

最低でも本土在住の奄美出身者にでも実現できないか。

(禧久議員)

3年前、徳之島では徳之島航空航路対策協議会の皆さんが約2万人近い署名簿を持って佐々木副知事と企画部長に要望されたことがある。

奄振の交付金創設はその時の理念、コンセプトが島民の利益となるかどうかである。

現在の国の交付金総額が約24億円。これをしっかりと増やさなければならないということに共有したい。

この声（離島航空割引の声）は各島々で起きており、奄美に来られる全ての方に適用すること、これはなかなか難しいということであったが、その前段として本土在住の奄美出身者が冠婚葬祭などで奄美に来るときに使えないかというような質問があった。

我々の質問に対して、当局は、奄美出身ということ限定すると20～30万人いるらしい。これに関しては地元の市町村が協力できれば可能ではないかと思う。

我々は安い運賃を使うためには自分が役場に行って割引カードを発行してもらっている。出身の方は本籍地のある役場に依頼して役場が発行するというのであれば、出身者の限定が可能であると思う。

それでも難しければ大学生。親の扶養に入っているので、親が取りに行ったり、あとはドクターとかにも軽減できないかという意見が出てきて今回の要望になっていると思う。

今回、平成29年度奄振体制に向けた総合調査を行っている。その総合調査で航空会社、地元自治体とか関係の方々との連携をとってできるだけ推進できるよう支援していきたい。

団体C

平土野港を改修整備できないか

徳之島が世界自然遺産に登録される中、世界中より多くの観光客が訪れ、大型クルーズ船が就航されると思う。

海の玄関口として平土野港の改修整備が急務だと思う。

(林議員)

平土野港の改修の必要性について、背景に徳之島地域が奄美大島とともに世界自然遺産登録の最終段階に入っており、国内外から多くの来島者を迎える海の玄関口としての整備が必要ということ。

これまで奄美群島の港湾に関しては、各島の西と東の港を定期航路の接岸港として整備を進めてきているところ。

県は船会社、クルーズ船の会社と観光のニーズ等様々な要素を注視しながら既存施設を活用して入込客の増加を図っていきたいという考えを持っている。

古仁屋漁港は漁港であるが、沖止めして5万トン級のクルーズ船を迎え入れた実績がある。既存の施設をどう有効活用していくかというところでまずは知恵を絞っていかないといけないが、離島は空港と港湾が島外との交通手段の全てであるので、この整備というものを力強く要望していかねばならないと思っている。

港の水深を掘り下げているが、それよりも早くクルーズ船の方が大きくなっていくという状況。そういう意味でも要望していかねばいけない。

観光庁がクルーズ船の受入を2020年度までに500万人を目標にするアクションプログラムを発表している。

鹿児島県が屋久島と徳之島・奄美大島の二つの世界自然遺産を一つの県で登録されることで、クルーズ船を受け入れる可能性がかなりあるのではないかと三反園知事も受け入れに関して非常に積極的な考えを持っている。

そういう意味で港湾整備というのが必要になってくると思うので、これからも今日は天城町からもたくさんみえていらっしゃるの、皆様の御協力をいただきながら奄美出身の県議の皆さんと協力しあいながら一緒に進めてまいりたい。

団体C

自衛隊を徳之島に誘致できないか

地方においては少子化・高齢化が進みまた若者の働く場も少なく若者は都会に仕事を求めて高齢化は段々進む傾向にあり、経済も衰退する一方である。

そこで、自衛隊を誘致することによる経済的効果と徳之島は台風の襲来地でもあるため、緊急時の災害対策等には自衛隊は大きな存在。

(禧久議員)

地元にも自衛隊の組織があり、10年近く前から誘致活動をされている。共通認識として、防衛と外交は国の専権事項であるということ。県には管轄部署はない。誘致される

と間違いなく経済効果があるが、今、自然遺産登録を目指している中で観光客の一つの要件に安心・安全がある。自然災害とか奄美のほうはテロが心配かもしれないが、雇用の問題で大変プラスになるという地元の意見が多いということは承知している。

そして、天城町では訓練も行なっている。これも一つの大きなことでもあり、誘致の方でも中央に行って積極的に誘致活動を行っている事実も承知している。

皆さんががんばっていただく中で県議会としてもご理解いただける方たちと一緒にサポートさせていただきたい。

団体C

電線・電話線の地中埋設はできないか。

徳之島は台風の襲来地であり、台風時には一週間も停電することたびたびあり、また船便も同様に欠航する。

家庭を預かる主婦においては、台風前には大量の食料も確保が必要だが、停電により冷蔵庫が止まるとせっかくの食料を腐らせることになる。

(向井(俊)議員)

電柱、電線の地中化は徳之島町だけに限らず、鹿児島県は離島が多い。台風が来る度に電話が不通、電話は携帯が普及しているので、ある程度フォローできると思うが、電線の場合生活に密接に関連した問題である。

これは、離島だけに限った問題でもなく、去年も鹿児島県本土の方でも南さつまとか南大隅の方でも3日間とか4日間とか停電して大変な思いをしたという例がある。

奄美の方でも電線が切れる場所は大体決まっている。九電にもそういう決まった場所からまず地中化してみたらどうか、という話をした。国道、県道、市町村道の道路管理者であるそれぞれの自治体、NTT、九電で無電柱化協議会が作られている。

その中でどういう風にしていくかということが協議されている。国でも去年の12月に無電柱化推進に関する法律が成立して、「無電柱化推進のあり方検討委員会」が設立され、中・長期的な観点から今検討されている。

そこには金子代議員も大変走り回って頑張っている。これから、東京都もオリンピックへ向けて無電柱化の動きを見せている。県の動きの方もまずは予算をしっかりと確保しながらそこへ向けていくという形になっていくと思う。皆さん方もしっかりした要望を県の方にあげていただきたいと思います。

(まつざき議員)

自衛隊の誘致について、少子化が進む中でいざ災害になった場合、自衛隊の方が懸命に救助される役割があるということで、自衛隊がそばにあれば本当に安心だという風に思われることと思う。

その一方で、今回、奄美市と瀬戸内町に自衛隊を誘致して配備されることになった。

そこに配備されるのはミサイル部隊、地对艦ミサイル(船に向けて撃つミサイル)と地对空ミサイル(戦闘機に向けるミサイル)、そのミサイル部隊が配備されることになった。

直接、九州防衛局に行って、ミサイル部隊の配備はやめて欲しいと要望した。そういう

ミサイル基地が作られれば、そこが攻撃的になるのではないかと聞いたところ、「そういうこともありうる」ということを言っていた。

奄美の方たちも誘致に頑張ってきた方たちの中にも「ミサイル部隊と判っていれば賛成しなかったのに」と言われた方もいる。

だから、自衛隊の誘致に当たってはそういう側面もあるということも是非お知りおきいただきたいと思う。

(県民D) 鹿児島県は地域をA, B, Cというランク分けをして、へき地手当が支給されている。県議会議員でいうと地区選出の郡部で活動している議員、地区でいうとC地区の扱いを受けている。

そういうところをしっかりと加味していただきたい。徳之島の住民はC地域で生活している。市内と比べても物価が高いと県が認めてへき地手当が支給されている地域に住んでいる。是非、県全体の予算で見るときにそういうところも加味して検討して欲しい。

(時間の都合で議員から回答はありませんでしたが、御意見・御要望はお聞きしました。)

(2) 分散会

①第1班(県民の生活、くらし)

(県民E) よく名瀬に行っていて、昭和47年頃は4時間かかった。子ども達の駅伝が有名で応援に行くのに4時間位かかる、今は1時間で行ける。

大島から帰ってきたら徳之島はダンプがいっぱい。

崖崩れがあちこち。赤信号で待っている間に落ちてきたら死んでしまう。安全な道を作って欲しい。

(林議員)

県道を国道にしてはどうかという話(県民Aほか)と同じ内容になると思う。

国道58号を徳之島に通せば産業振興に繋がるし、大切な宿題であると思っている。海で繋いでいこうというのが定期航路。鹿児島から沖縄まで船で繋いでこれを国道と見なしで国の補助が付いている。

徳之島内の国道化については、県議会議員をはじめとして要望していくと同時に、現在は県道なので、サトウキビを運搬するトラックが多く通るという特性を踏まえて道路整備を進めていくということで、努力して参りたい。

(桑鶴議員) 要望として承って、議会活動の中で予算要望とか地元の先生方としっかり連携してがんばっていききたい。

(県民F) 徳之島高校と樟南第二高校がある。自分は徳校出身だが、自分の頃の全校生徒は千人以上いた。平成30年度は200名から300名で少子化。

樟南第2高校には、スクールバスが走っている。徳之島高校にはない。

路線バスも少なくなってきた、島の子どもたちは島外に出て行ってしまう。①徳之島高校に通う子ども達にもスクールバスで全島を回って貰えないか。

②都市ではJRと私鉄が相互乗り入れしている。樟南第二高校のバスと徳之島高校のバスが相互乗り入れをしてうまく島内を回って、島外に若者を出さない方法はないか。③県立高校の存立をどうするかということも併せて教えていただければ。

(伊藤議員)

出水高校も離島ではないが、生徒が足りなくて学区外へ出て行く生徒が多い。そこは、スクールバスを自分たちの力でしていて、その部分で県の方でどうにかできないものかと質問したことがある。

地元の学校に人を残していくためにはそういう措置も必要であると感じている。

(鶴園議員)

地元川内高校がある。数年前から3つの地区でスクールバスが出ている。PTAが主体となって利用協議会を作って運営している。もちろんバス会社と契約しているものもある。

(ふくし山議員)

今の件はこれは教育問題と交通政策、交通政策の中に社会福祉政策という位置付けが必要だと思う。

学校に限らず全体の交通網、買い物弱者とか病院に行けない、こういう方々をどうするかという課題があるので、トータルで考える時代に来ていると思う。

(林議員)

古仁屋高校も生徒数130名、学区が加計呂麻、請・与路まで、生徒が自宅を飛び出して、進学、名瀬も近くなりあるいは鹿児島にと(出て行ってしまう)。

どうやって地元に残そうか検討している。地元の瀬戸内町の加計呂麻から出航する船の補助、朝、船の出航時刻が学校の始業時刻に間に合わないの、船舶を運営している組合さんに時間調整をお願いして、陸上のバスも時間調整していただいて、既存の路線を活用してそこに地元の町が応援していくという形で町立高校というような認識で地元の高校に通ってもらおうとやっている。

(県民G) ①高卒で島を出ていたが、3年前に帰ってきた。徳之島の状況を見て色々感じている。要望したい。小さい子ども、重度障害者等の避難誘導や避難場所等について、避難誘導するに当たって避難場所等をどうするのかということで、様々な議論をして3年

間かけて方向性を出してきている。

徳之島では津波の心配で亀津に住む人が高台の畑があったところに住んでいる。県議会の予算としては、国の指導もあると思うが、どういう考えで指導されているのか。

② 私が帰ってきてからも徳之島はなかなか点字ブロックはなかったが、今はきれいに整備されている。残念なことに歩道を車が駐車場代わりに使って、歩道に貼ってある点字ブロック誘導ブロックの上に車が乗り上げている。これの解決について、警察の管轄になるが警察に言うのは簡単だが、折角こういう機会であるので、何か手立てはないか。

(ふくし山議員)

避難マニュアルは、それぞれの町が状況に合わせて策定。改善されていないところもあると思うが、折角作ったものがよく調べていないということではいけないと思う。

点字ブロックは視覚障害者のために目的地までたどり着けるように設置してある。鹿児島市内でも点字ブロックが有効に機能していない、役割を果たしていないことがあって、一昨年前、県は「障害のある人もない人も共に生きる鹿児島県条例」という条例を作った。国は「障害者差別解消法」を作って、昨年4月から施行された。

障害を持つ人々に対する法整備はほぼ整ったという状況。これらがどういう意味を持っているかということをお我々がしっかりアピールしていくことが重要。

昨年、監査委員をしていて、折角この条例ができたので、周知する必要があるがどうしているかと聞いてみた。なかなか解決策としては注意を促すということになるのかもしれないが、そういうことを広めることも大事である。

(県民H)

① 学力向上に関して毎年、小中学生を対象に学力調査を実施している。徳之島は県平均よりも低い状態。伊仙町に小中学校が11校ある。教員配置を見ると期限付採用教員が多い。小中学校の中で1名か2名は必ず期限付採用教員。1年すれば変わってしまう。児童・生徒、教職員数の割には多いと思う。期限付採用教員が悪いという意見ではないが、1年間しかいないので、子ども達への教育にも集中できないのではと思う。子ども達の学力が低いのは、それも一つの要因ではないかと思う。離島の子ども達の学力向上支援と期限付採用教員を外していただきたい。

② 徳之島3町で子ども達の学力向上のため3町とも公共で学びの場を作っている。伊仙町は平成28年度から始めたが予算がなかなか厳しい。限られた分しかできないという現状。本来ならば学びを共感づけるのは小1からさせることが大事だと思っているが、なかなか行き届かない。

県の予算で何とか支援をしている市町村へ助成をしてもらえないか。

(西高議員)

期限付採用教員、6月議会でも文教警察委員会で特定調査を行った。

①新学期は転勤等による転校の情報が直前まで分からない。1人の増減で、学級数が増えたり減ったりする。教育委員会も事前に調べているがなかなか全ては掴めない。急にクラスが増えたり、特別支援学級を設置したり、正規職員の異動だけでは対応できない。長期休職、産休育休の職員への対応も含めて期限付採用教員の採用はどうしても必要として運用されている。期限付採用教員がいるおかげで教員の数は充足している。新規採用ができるかということ、毎年状況が変化するので、期限付採用教員で対応となる。

②学力の問題。県で大きな問題となっているのは、貧困児童の問題。貧困児童の子ども達の学力が非常に落ちているという調査結果が出た。それは何か。朝食を食べてこない。本土でも準要保護家庭まで含めると3割いる。私たちが教育委員会にお願いしているのは、校長・担任が子ども達のことを一番知っているはずだから、どうやって子ども達に朝ご飯を食べさせるか。それが学力向上に結果として出ていると周知する努力を私達はしましょう。そのために取組の例をしっかりと調べてくださいと。それを各市町村の教育委員会に伝えながら、県が今進めている「早寝、早起き、朝ご飯」の推進。これが学力向上に役に立つ。ご要望の分からない部分を教えるような塾とかに対する補助もあると思うが、それは次の段階で、今はこれ（朝ご飯）を進めたいというのが現状。

奄美に行政視察に行った（7/20～7/22）。奄美では校長、教育委員会から話を聞いたら、奄美の方が貧困の割合が多いという報告もいただいている。

ともかく私たちが一番大事にしているのは、まずは子ども達がしっかりと寝て、しっかりと早起きして、しっかりとご飯を食べて授業に迎えるよう取り組もうというのが、文教警察委員会で進めているもの。

いただいた意見については、教育委員会へこういう要望があったことを話したい。

（林議員）

加計呂麻出身。小さい学校、専門教科外の先生に教えてもらう機会が多かったが、学校の規模が小さくなって生徒の数が少なくなってきたことが一つ。徳之島の方では山、母間、花徳の3校でインターネットを活用した県内では初めての試みをしている。3校の先生方が専門教科の先生方と連携してこれからこういった授業を展開していけるか今後の可能性としてある。生徒数や学校の規模を乗り越える一つの手段として、ICTを活用した教育環境の構築というものが考えられ、県のモデルとして徳之島3校でスタートしているので、さらに発展させていけるような努力をしたい。

（県民1） 世界自然遺産、登録へ向けていろんな調査がある。9月にIUCNから調査官が来る。調査官へオリンピック招致ではないが、最高のもてなしをして、島の印象を良くして帰ってもらうことが、登録の決定に繋がると確信している。

迎えから色々なイベント、島の文化、闘牛、唄、踊り、全て案内して最後に見送って返したいという気持ちでいる。金の掛かることでお願いしたいのは、ヘリコプターで上空から観察してもらって、徳之島から加計呂麻など大島全体を上空から観察してもらって、島の自然を理解してもらうということを考えている。御協力をお願いしたい。

(永井議員)

大詰め段階に来ていると認識している。IUCNの9月調査については、日程がまだ決まっていない。登録に向けた最後の難関。保護担保措置を含めていろんなことを指摘されるので、それにどう対応し、どう応えていくか、そのことが来年に向けた最後の山場だと思う。

そういう意味で、地元において、調査員の方を歓迎していただくことはありがたいこと。皆さんと三町の行政の皆さんとしっかり連絡を取ってやっていきたい。

県も自然保護課に環境省と連絡する窓口として新たな世界自然遺産登録のための推進室を作って県全体をあげて全庁的にやっている。

その中で、ご指摘の本島も含めた上空から見える形を段取りとるようにとすることなので、御意見は大切なことだと思うのでその部門に伝えて、できること、向こうが求めていることと照らし合わせながら対応していきたい。

(県民U) 子育て支援員の研修について考えた。介護で言えばヘルパー講習がある。ヘルパー講習は中卒以上、高校生は受講可能。子育て支援員に対して高校生はこれから短大に進学したり、保育士を目指す人、生活水準によって進学できなかった方もいると思うが、彼らは子育て支援員の資格取得は可能なのか。

可能であれば県本土でこういった取組をしていることがあればご教授を。

(ふくし山議員)

市町村によって待機児童に差があったりしているが、支援員の取組について、具体的な事例を持っていない。

支援員の研修を引き受けるかという打診をして、引き受けましょうということで、誰々さんが行きます、というようにしているが、スムーズにいつているところとそうでないところがある。

研修を受ける人達に様々なレベルがあって、受入側が予備知識を得られていない。鹿児島市は、受講生のレベルに応じた研修になるよう情報を流してマッチングしている。

鹿児島市では、受講生を保育園に送り込んで受講という形で実施しているとのこと。

(林議員)

高校生が受講できるようにすべきではとのお尋ねである。昨日(7/28)まで福岡へ行政視察に行っていたが、県民生活局関係で福岡で全く同じ質問をした。

基本的には年齢を限定していないので、可能とのこと。高校生は授業があるので、そこを乗り越えられるかということ。県は年3回開催、徳之島町も開催されている期間の調整をして受け入れられるよう工夫して取り組んでみてはどうか。

(県民K) 奄振のことについて聞きたい。奄振は、奄美の振興のための金だと思ってい

る。奄美群島の市町村道，農道，耕作道，生活道路そういったものに奄振の金を使って，余ったら県道とかトンネルとかに使っていただくのはいいが，奄振の予算が鹿児島県の施設にほとんど使われている。それでは奄振の意味が無い。県知事と話をして，奄振の市町村道，農道，耕作道，生活道路に大半のお金を使っていただいて，7対3の割合で奄美の市町村道に7割，県のために3割そういった方向でお力添えをいただきたい。

（永井議員）

再来年の奄振の改訂に向けて，今，総合調査と色々な語らいを進めているところ。要望の趣旨は理解できるが，現実には奄振として国道だけをやっているわけではなく，県道や市町村道に対してもそれなりの補助は地元と協議をして実施している。

ちょうど今，各，市町村から来年に向けての要求が出て，国の方で概算要求をまとめる段階。そういう中でいつも求められるのは，地元の負担がそこに求められるので，国としては全体のボリュームをとるために段々上げてくれというときに，なかなか地元から上がってこない現実があったのも事実。一方で，国の地下ダムや国道整備のトンネルなど，奄振事業全体のウエイトに大きい事業が占める点があることも事実。そのことを含めて次期奄振の中でもっとボリュームアップやいろんな語らいをやっている最中なので，御要望の趣旨に添えるよう各市町村としっかり連携して行くが，全体を積み上げて奄振という一つの枠組みになっていることも理解して欲しい。

（県民L） 世界自然遺産登録が実現しようとしているが，このままでは街路樹が台風でやられたり，虫に食われたままであまり良くない。民主党政権以来予算が少ないということで，造園工事は全く無く，道路に木を植える事業が無い。木を植えるようにしてある場所に木が全く植えられてない。世界自然遺産に登録しようとしているところなので，そういう環境美化にも県が力を入れてもらいたい。色んな国から来るようになった場合，南国らしい印象を与えられるように県で力を入れてやって欲しい。

（林議員）

世界自然伊仙登録を目前に今の話，景観とか造園とかしっかりと整備して徳之島の魅力をもっと高められるようにすべきとの要望と受け止めた。

登録も最終段階に入ってきたので，登録に向けて徳之島の皆さんとしっかり取り組んでいきながら，県として魅力ある観光地づくり事業とか大島支庁の地域推進事業とかしっかり地元の町と連携を図りながらこういった地域にこういった景観あるいは造園が街路樹が必要なのかということについて県に上げていただいて町と県が一緒になって環境整備に色々ご指導いただきながら頑張っていきたい。

<第2班>

(県民M) 離島というのは船運賃が何に対しても掛かる。

農産物を売るときは、輸送費の助成が出るが本当は我々がハンデと思っているのは餌代。飼料、農業資材に係るものが一番経費がかかる。本土から島へ来る運賃を少しでも助成を付けていただきたい。

(禧久議員)

この課題は私たちの方でも議論をして国の方に要望をしているところ。

それで、農業の畜産に限らず、いろいろな肥料・飼料・農薬・機材、建設も農業も、そして、島民の生活必需品、これは例えば鹿児島を100とすれば、奄美群島全体で118億円余り。

したがってそこで経済的格差を改善してほしいということで、この制度ができた3～4年前から議論をして、その拡充をできるように努力している。

(柴立議長)

全国議長会に離島振興対策部会というのがあり、その部会長をさせていただいている。

その中で有人離島が日本の国益にどれくらい貢献しているか、その辺も含めた上で是非、人の往来や物資の流通は本土と同等に扱ってもらいたいということで、離島航路航空路整備法を是非作っていただきたいと去年からお願いしている。

しかも今回、全国の離島を有する市町村会の会長に屋久島の荒木町長さんがなられた。全国市町村会でも同じような要望を7月に出されたということなので、議会と全国の首長が一体となって取り組んでいきたいと思っているので、今後ともご助力をお願いしたい。

私は鹿児島市選出だが、十島村・三島村も同様な要望が沢山でてくるということで、是非頑張りたいと思っているのでよろしく。

(県民O) キビ価格についてお願い。燃料代も1.5倍位に上がっているが、コストの方を計算する方法があったと思うが今、キビ価格は上昇してないので、キビ価格について県議会としてどのように考えているのか教えてほしい。

(禧久議員)

1トンあたりの16,420円と出来高の5,850円を足した、35年22,000円前後と変わらないその部分と思う。

各島々を回っている中でサトウキビ農家や関係団体含めて一つの大きな課題として取り上げ、また、大島郡のサトウキビ価格対策協議会長は今、天城町だと思う。できるだけ国の方に声を出していこうと。この原因を話したら時間がないので、また個々に御説明できるときにお話をしたいと思う。

沖縄県ともその価格に関してしっかり連携を取らないといけないと思うが、こういう表現をして良いかどうか分からないが、沖縄の場合は交付金が多くてあまりそういう声が上が

っていない、それは国に対して遠慮している部分もあるかもしれない。

そこで、昭和60年頃から、その前から35年間、1トンあたり21,500円から変わらない。しかし、1反あたりの骨材・物材、肥料飼料いろんな減価償却、機械のハーベスタ料とか、これが大体55,000円だった。

これが、去年一昨年84,800円ぐらいになってる。そうすると、1反あたりいくら収益を上げてても農家の手取りは低い。

したがって交付金と言われる1トンあたりの手取りをもっと上げられないかという話はずっとしているので、また連携をしっかりと深めていく中で推進をさせていただきたい。大変、大きな重要な課題であると認識している。

(県民P)

① 道路使用税32.1円。燃料代の減免分を輸送トラックの皆さんにも交付金で応援しなければ、輸送業者も非常に四苦八苦している状況にある。是非、奄美群島全体の問題なのでお願いしたい。

② 畜産農家。今、非常に価格が良いということで喜んでいるが、農耕飼料は100%輸入。地球規模の異常気象の中で、これからも輸入でいけるのか輸入先の状況を県議会で調査をされたことがあるのかどうか。県議会でオーストラリアなり調査していただきたい。

③ 園芸、農業も含めて、肥料が3年前に価格が倍に上がった。産地は泣き寝入りするしかない。肥料も100%輸入。EPA や FTA や TPP などを含め、資材は非常に上がっている。今、輸入で助けられてるという状況を今後、どうしていけばいいのか、離島に住む者として、将来に対して非常に不安を感じているので、県議会の先生方をお願いしたい。

④ ハブの問題。かつて県が3千円、町が2千円出して5千円だったが、捕獲量も非常に多かったため、県が半額にした。町も500円下げて、今3千円である。

空き家が3町で1300戸位あり、ネズミがいっぱい増えてハブが増え、人家、集落内にもハブが出没するようになってきている。世界自然遺産登録に向けて環境整備をしなければいけない。今、黒ウサギを守るために野猫対策をやっているが、実際、非常に危険な状態にある。3年とか時限立法で結構。まず、県を1500円上げていただきたい、そして市町村で500円上げて5千円にする。それを取り組んでいただきたい。

⑤ 意見を出したあとどうなっているのか分からないというのがある。こうしました、こう決定しますという良い返事をお願いしたい。

(向井議員)

輸送業者、トラック関係の燃料のことで、なんとか補助ができないか。実は私ども奄美本島の笠利町、空港近くでもやはり同じくサトウキビ栽培が盛ん。そういう中で、非常に搬送するコストがかかるということで、お話しいただいている。それで、陳情も上げていただいている。その時、どこの委員会で所管するか揉めた経緯もある。そういう意味で私どもも交通整理をきちとした形で、今、その陳情案件は継続になっている。

再度、きちとした形でどこの所管になるのか、それをしっかりさせて、要点をもう一度交通整理してみようかと思っているところ。確かにもうやっていけないと言って、やめた業者もいらっしやると思う。そういうことがあっては、せっかくサトウキビでやって

きた奄美としては大変だなという思いがある。皆様方のご意向、それをしっかりと受け止めて、なんとか、県、国の方に、また、しっかり訴えていけるようにしたいと思う。価格の方の交渉もそうだが、実態、現場で働いている業者の皆さんや農家の皆さんの現実をしっかりと受け止めて、県と国の方で対策を取るようにしたい。

(寺田議員)

飼料価格に関しては金子議員が1度、徳之島の方に入れる輸入飼料を個々の農家ですると大変だから、JAでまとめてロットで取れないかとしたところ、JAは手数料を取るということで、個別の農家と何人かで協議をしていただいた上で、農家直接渡しの橋渡し役を一度お手伝いさせていただいた経験がある。

飼料に関しては、自家で草地を持つ農家というのは鹿児島県内、日本全体でも非常に厳しい状況で、ほとんどが輸入飼料に頼っている。私自身も米を6反くらい作っているけれども、半分くらいは地元の畜産農家に堆肥交換型で渡している。このことは、畜産農業をする上では非常に大きな課題だと受け止めている。

ただ、基本的に本土と違うのはやはりコストがかかる。船で運ばないとどうしようもない。これに対しては、島の置かれている環境、交通対策含めてそれを産業用の物を含めて、どういう形を作っていくのかというのは、これは大事なことだと思っている。

沖縄との差別問題もあり、先程来、いろいろな形で議論が出ている、やはり地域が抱えている本当の本音の部分をもう1回、国としてどう制度設計していくのか。それに対し県がどう対応していくのか、それと、当然いろんな施策を打っていくと市町村の負荷部分もある。そういったものの制度設計をしっかりとやっていかないといけない。

ちょっと話が出たように、特に安全保障上の問題で、離島の置かれている価値観というものがない見直しを受けている。防人の役割も果たしているんだと、有人離島そのものの価値を国がどういう形で位置付けていくかということも、勘案していかなければいけないと思っている。国の方向も自衛隊の配置も含め、安全保障上のことも含めて、この地に人が住むことがどれだけ大事なことかということをしっかりそこを分かっているかといかないと。我々も、しっかりそこら辺はさらに訴えていきたいと思っている。

具体的に今この場で奄振の対策でいくら挙げるとは言えないが、思いは一緒。そこら辺はしっかり県議会としても受け止めていきたい。

(禧久議員)

以前からこのハブの問題、要望があり、数年前までは5千円、これが2年に1回ぐらいで一応、改定検討ということであったと思う。

今、町村が1500円、県が1500円、ということで、この間もこういう現状があるとお伝えした。これで、もし、県が上げるとすれば、喜界と与論を除いた3町村、2村4町、6町村の統一したご意見が必要。今回、議長から出ており、意思統一はしっかりとされているという認識で、引き続き、しっかりと推進していきたい。

(柴立議長) 徳之島で全体で空き家が1200戸ぐらい。そのことが、ネズミの増加に繋がり、ネズミにハブが寄って、集落に前よりもハブが出没するようになったというのは

今、初めてお聞きした。

そのような背景も踏まえ、これからもハブ対策は永遠のテーマ。その辺については一生懸命努力をさせていただきたいと思う。

限られた財源であるけれども、県議会としても今のご意見はお伺いしたので、できるだけ取り組んでまいりたい。

(県民Q)

① 奄美の世界自然遺産。おそらく秋頃、IUCNの現地調査があると思う。その時に、県議会の方としては、奄美と徳之島の受け入れ対策をどういうふうに考えているのか。

② 亀徳新港。ボーディングブリッジが南3島にはない。高齢者、身障者、急な階段を上り下りしている。是非ボーディングブリッジを南3島にも作ってもらいたい。

③ 亀徳新港の2階の喫茶スペース。当初から使われていない。値段が高い。2階は全然使われていない。やっぱり家賃が高い。県の港湾課の管轄で問い合わせたら、最初作った規程を変えない限りはできないと。議会にあげてそういうのができるのかどうか。これは徳之島だけじゃないかもしれない。南3島全体を調べていただきたい。奄美の方の土産店は6坪くらいで2万前後、徳之島は月4万円台。亀徳新港には朝と夕方しか船が入らない。天城も一緒でしょうが、お土産店は大変じゃないか。

④ 亀徳新港は前から突っ込んで、バックで出る。バックで入ってから出るとか港の作りが設計上悪いように思う。ちょっと波があると全部平土野港に行く。見直しができないか。

(鶴丸議員)

世界遺産というのは、奄美にとって大変な起爆剤になる重要なものであるということも認識している。沖縄と一緒にいろいろな協議会、県の方でもいろいろ詰めているが、今、お話しがあった視察に対してどういう形で進めるのか、ヘリコプター等も今お話しがあった。大変面白いアイデア。両方一緒だと、上から見た場合、そういったものをその中で検討していってもらえればいいのではないか。

具体的には方法論については私どもも行政当局もまだ、どの方法で進めていくかというのは具体的に聞いてないが、大変面白いアイデアではないかと思うので、この話についてはつながらせていただきたい。

(禧久議員)

鶴丸議員の話にちょっと付け加えると、世界自然保護協議会という専門分野の協議会がIUCN。ここは他のいろんな視点の意見はあまり入れないという理念があって、県の方にもどういう形で視察に入るかというのは来ていないと思う。ただ、今おっしゃっているのは受け入れなので、町民を含めて例えば歓迎をするとか、こういったところを見てもらいたいとかいった意見は良いと思う。それは、鶴丸議員が答えたように我々が協議して、また、ちょっとご意見もいろいろときているので、そこは議論をさせていただきたいと思う。

ボーディングブリッジ。これは何十年の課題。与論、沖永良部、徳之島。名瀬はできている。喜界もできていない。決して要望が断ち切れているわけではない。港湾空港課にも

こういう要望があるということはちゃんと明記されていると認識している。鹿児島新港を作るときに1つのパッケージとして、もういつまで経っても作りきれないから、徳之島、沖永良部、与論も新港も1つの大きな計画のパッケージとして考えられないかと直接直訴したこともあった。その時もなかなか財源が確保できないということだった。

お店の件。非常に借り手が高いということの根拠は港湾事業をするときに、国土交通省のB/C（ビーバイシー：費用対効果）とまでは言わないけれども、積算基準というのがあるって、ある程度一定の収益などを加味した計算方法があるようだ。そのため、なかなか値段を下げてくれとか言えない。では、このまま使わなくてもいいのか。離島という特別な部分を持っているところを出して、また、有人国境離島法とかもできており、こういった部分を加味して離島の価値観を高めて国土交通省が云々言おうとも離島はこうだ、というぐらいの気概を持ってやるべき。そういったことは、また、お話しをさせていただく。

亀徳新港。入港したら、そのまま頭からまた出港できないかということは、5、6年前くらいから議論している。財源の問題は当然だが、大きな問題は珊瑚礁等の環境保全をしっかりしなければとならないということ。ここはだいぶ、幅、長さを取らないといけない。大きな穴を掘る。すると自然環境がどうかということでブレーキがかかっている。いろんな工法、また、しっかりと議論できるようにしていきたいと思う。

（柳議員）

ボーディングブリッジに関しては、非常に重要な問題だと認識している。現在、奄美群島では名瀬港だけボーディングブリッジが設置されているが、どこの離島でも住民ニーズは同じ。予算の関係とかだけで県が現状では困難だと答弁している。でもやはり、同じ離島に暮らす住民の方々にとっては、どこに住んでいても同じという思いは本当にその通りだと思っているので、地元議員の皆さんも従来、ずっと要望している。現状をしっかりと認識してもらい、早急な整備を是非検討してもらおうという立場で、私も全員同じ認識だと思う。今後とも粘り強く交渉していきたいと思うので、ご支援よろしく。

（下鶴議員）

亀徳新港の2階が使用料の関係で空いているというご指摘をいただいた。確か5年程前も「知事へのたより」で出ているようだ。その際の県の回答としては、借金で作っているからその賃料で返すという関係があるというお答え。ただ一方で、個人的な考えだが、然は然りながら、ずっと空き家では賃料は入ってこないで、結局、作ったときの借金は返せない。また、港を利用される方にとっても空き屋では何にもならない。その時も町と協議をするという返答になっていたが、まずは地元で、例えば、賃料を値下げしたら入ってくるところがあるとか、そこを協議をしていただき、それを持って県と協議をというふうに思っている。

また、「県でどうにかならんのか」というのは、使用料は県の条例で定める。そこは、決め方で、県の方の裁量で決められると思うので、法律的な考え方になる。まずは、町の方で、下げたときに入ってくれるところがあるかどうかをご検討いただければと思う。

また、私、鹿児島市郡区の鹿児島港北埠頭の方もずっと空いていて勿体ないということもあるので、ぜひ、地元の方との協議・検討を続けていければなと思っている。

(成尾議員)

先ほどの使用料について、私も一生懸命やった。全部の港の空き空間を全部出してもらった。北埠頭のトッピーのところは店舗がいっぱい並んでいる。毎時間船が入って来るのでお客がある。他のところは船の来る時間帯が少ないので、その分手を挙げるところがない。是非、ここは賃料を下げ、収入確保の面からやるべきだと言うが、ただ本当に下げた場合、手を挙げていただけるか、これをやっぱりいろいろと協議していただきたい。

その時間帯だけやるので、時間給みたいな形で貸してくれという相談はできる思っているが、そういうのも含めてしっかりと協議したいと思っているので、よろしくお願いします。

(団体R) 今回、TPPが発効されると大きな農業事業者は発展、また、輸出産業として展開していくのだろうが、徳之島、奄美のような小さい農地を持っている農家が、どうやって世界の現状に対抗していくかという課題は大きな問題。農業資材、農業機械、農業肥料、また、家畜飼料の高騰、それを県をあげて、低減していただきたい。農業は成り立たない。1千万円の機械を購入して、補助を受けても500万円の負債を抱えて農業をする。もう少し機械への、あるいは事業への支援ができないか、議会の皆様のご賢明な判断をお願いしたい。

(成尾議員)

離島においては資材、機械、普通でも高いが、それをぜひ安くすることと、運搬について徳之島まで運ぶと更に上がる、そういうものも含め、ぜひ国の方、機械だけではなくて、資材等についても何らかの(補助を)。今は、出すときは農産物については(支援が)あるが、逆に入ってくる物を安く運搬してもらえようにしてほしい。そこも含めて、奄振また今後5年間でいろいろ変えていくと思うので、その中にいろんな形で提案として、メニューとして入れられないかしっかりと国の方とも打ち合わせながら頑張っていきたいと思っている。

(団体S)

現在、徳之島空港の駐車場はいびつな感じ。隣に更地の駐車場があって、地権者の方が無料で開放している。今後、世界自然遺産、再来年度の頭に格安の航空会社が飛んでくると、島の方々の帰省もしくは観光客がすごく増えてくると思う。現状では防波堤があるためにもものすごい不便な駐車場になると思う。ロータリーみたいないびつな駐車場になるため、その防波堤の管轄は県で、禧久議員のお話では10数年前に要望が出ているが、県から良い回答が来ないとのこと。数メートルだけでいい。現状の駐車場と隣接する駐車場で広い駐車場にできないものか。バス路線もあまり本数がない。島も本当に車が多くなっており、車がなかったら生活できない、そういう社会になっていると思う。できるだけ広い駐車場を確保したいので、皆さん方のご支援をよろしくお願いしたい。

(禧久議員)

内容的には良く認識している。抜本的な改正となると、いろいろと大きな問題があるが、

そこをまたしっかりと協議させていただいて、ご報告できるようにしておきたいと思う。

(県T)

船の抜港の問題は県議会の中でも議論されていると思うが、亀徳新港への変更と船の大型化によって、平土野寄港が増えている。

沖永良部・与論であれば(裏港寄港でも)タクシーで1,000円、2,000円で済むが、徳之島の場合は、平土野から亀徳まで5,000円近くかかる。

それをどこも補償してくれない。ある船会社のホームページを見ると、「もし平土野に着いた場合は、亀徳までは自己負担です。」と書いている。我々は亀徳新港から乗ってるので、亀徳新港に運ぶのが船会社のルールと思うが、全然認識されていない。

旅行者には宿泊を伴った場合の補填制度が今度できたようだが、島民には全く関係ない。

亀徳新港を造って良かったのかという議論もあるが、平土野寄港だと5,000円もかかるということを県議会としても議論してほしい。

倒産した船会社が想定より2~3年早く借金を返し終えたということは、それだけ儲けたということ。その分を利用者である島民に返して欲しい、そこら辺りを議論して欲しい。

(禧久議員)

この課題、船会社に責任があるのか、作った部分に関してのいくらかの負担があるのか議論があるが、もう一度ちゃんと精査させて欲しい。